

1. 開会の挨拶

2. 協議会委員の紹介

藤井正俊氏、小川朋子氏、中村俊一氏、上田文章氏、羽田野建夫氏、藤原功氏

3. 議事

<報告>

(1) 本年度の進路状況 [原田進路指導部長より]

- ・ 未定者（浪人生）の激減 例年約 70 人→47 人に
- ・ 国公立大学進学者 43 人（これも減少）
- ・ 平成 12 年度より教員の指導状況に変化はなく、むしろ一丸となってますます熱心に講習等が行われている。新課程入試を来年度に迎えるため、今年で決着をつけようとする者が目立った。本来なら国公立を目指してチャレンジする者が、立命館大学等の私学に流れた。親子ともども浪人を避ける傾向があった。
- ・ その他の特徴としては、公務員の増加があげられるか。
- ・ 今年の 3 年生については、センター試験も多くの生徒に受けるように指導するとともに、浪人してでも第一志望を目指そうという働きかけをしている。例年、現役合格した卒業生からの講演を聞かせているが、ことしは浪人生にも話をしてもらった。

(2) 平成 26 年度学校教育計画について

別紙資料に基づき説明。（主に昨年度からの変更点について）

- ・ 防犯カメラの設置について
体育館更衣室の入り口・・・2 学期を目処に
- ・ ホームページ委員会の設立
開かれた学校づくりの一環として、重要な役割
学校として本格的に取り組む必要あり
- ・ 評価指標の設定
センター試験の平均点が全科目全国平均を上回ること
ガイダンス面談に対する肯定度 90%以上
- ・ 授業アンケート実施による授業力の向上
今年度は年 2 回をいずれも「鳳方式」で行う

(3) 平成 26 年度入学者選抜について

- ・倍率 1.84 倍（昨年度 2.08 倍から若干減少）
- ・生徒の特質はあまり変化なし
- ・旧 8 学区 85%（昨年 77.7%） 旧 9 学区 13.8%（昨年 20%）
岸和田市内、泉佐野市内からの生徒が減っている
- ・今年度入学生の部活動加入率は 89%

→ 旧 9 学区からの入学生が減る傾向は、来年度以降も続くのか？

- A. 前期入試が旧 9 学区にはなかったが、今年度から各学校 2 クラスは前期募集になり、地元に戻った様子が見受けられる。9 学区は動きたがらない傾向あり。今後もこの傾向は続くのではないか。言葉も違うし、伝統も違う。古い家は特に出したがない。

(4) 広報活動について

- ・広報活動全般について

鳳高校をよく知った上で入学してもらいたい。

受け入れた生徒をどのように育てているのかを知ってもらいたい。

不本意入学を防ぐことが第一目標

- ・説明会での様子をデモンストレーション

所在地について

学校の特色について

広大な敷地、恵まれた設備

→ クラブ活動が盛ん（文武両道）、少人数授業

45 分×7 時間授業 → 空き時間なし

単位制 → 大阪で初めての進学型単位制、

生徒の 9 割が 4 年制大学を目指す学校での単位制

一人ひとりの学習計画

進路状況について

全国津々浦々、様々な学問を志して国公立大学に入学している

ガイダンスについて

全校をあげてのガイダンス週間

面談を通して、しっかりとした第一志望が定まる

精神的に追い込まれた生徒が進路指導室を訪れる → 叱咤激励！

特色ある行事、入試の様子など

→ 横山高校や、上神谷高校でも説明会に臨んだが厳しかった。鳳高校なら楽しんで説明できる。説明がよければ生徒はのめりこんでいく。

→ 中学校での説明会の様子は？

- A. 大きく分けて 2 種類。ひとつは学年全体への説明。

もうひとつは、鳳高校を希望している生徒たちへの説明。
後者の方が力が入る。

- 鳳高校の自由選択科目は大学のように、人生を選べる。
これだけ一生懸命な先生がそろっている学校は他にはない。

4. その他、お気づきの点など

特になし。頑張りすぎるくらい頑張っている。満足して帰れる

5. 次回以降の学校協議会について

例年は第2回は授業見学を取り入れている。今年度も一応その形で考える。
詳細は後日連絡させていただきます。

6. 閉会のあいさつ